

本年の早期水稲の品質と今後の対策は

品質の検討や栽培技術の改善に努める



中倉 広文 議員

本年産の早期水稲は、収量減と乳白米等の多発による品質の低下で、生産者は大きな被害を受けた。また、それを補う水稲共済や品目横断的経営安定対策も制度上の問題から、十分な補償を受けられない状況にあり、今後の米生産意欲を大きく減退させられている。町としてどのような受け止め、どのような対応をしたのか。

国に要望活動を行なった

町長

今回の被害は、当初予測できず、収穫して初めて規格外米の多発が判明した。そのためほとんど稲作農家が農業共済制度における被害申告を行

なっており、所得が大きく減る打撃を受けた。このことから大隅地域の4市5町では、農業共済制度の見直しなどについて、大隅総合開発期成会々長の山下鹿屋市長を中心として、農業関係団体と共に国に対し要望活動を行なった。

水田条件と肥培管理の調査は

中倉議員

乳白米発生につながると思われる要因は農林水産省でもいくつか挙げられている。多少であろうとも品質の良かった生産者のピックアップをし、その水田の条件や生産者の肥培管理について調査をすれば、今後に活かされると思うがどうか。

検証は必要である

町長

技連会で本年の不作の原因は、高温や日照不足

など大体つかめているが、検証は必要なことなので今後の会議で提言していく。

作期や肥培管理を変えた実証圃の設置は

中倉議員

早期水稲が始まってから長い年月が経っている。最近では米保管技術の向上で価格のメリットもさほど無く、また、温暖化の影響か台風の影響も年々早まってきている。そこで、水田条件や隣接耕作者の理解の得られる場所で作期や肥培管理を変えた実証圃を設置し、今後の大崎の米産地づくりに活かしていく考えはないか。

貴重な意見として提言していく

町長

農林水産省でも同様な意見をいわれた。出穂期から登熟期にかけてが梅雨期にあたることや、近

年の気候の変動に対しての認識を持つ必要があるので、今後審議していく。

水田農業に活気を戻す取り組みは

中倉議員

早期水稲において本町は、常に先駆的な立場を担ってきた。先を見据えた水田農業のビジョンを示し、生産者に再び活気が戻るようさらに努力されることを望むが、その意気込みはあるか。

前向きに考えていく

町長

農業経営は所得の向上が図られて健全経営ということが最たる主眼であるので、頂いた意見は稲作部会などで検討し、前向きに考えていく。

(その他の質問)

農地・水・環境保全国上対策における関係課との連携は。

※言葉の説明

技連会：正式名称は、大崎町農林技術員連絡協議会で、役場農林振興課、耕地課、農業委員会、JA、農業共済組合、森林組合等の職員相互の連携及び親和を促進し、会員の資質の向上と農林業の振興を目的とする会です。



多く発生した乳白米